

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

「在宅医療の提供体制の評価指標の開発のための研究」

分担研究報告書

退院支援における評価指標に関する研究

研究分担者 坂井志麻（杏林大学保健学部看護学科 教授）

#### 研究要旨

本研究の目的は、退院支援における評価指標について文献検討にて明らかにすることである。医学中央雑誌より「退院支援」、「患者満足度」、「アウトカム評価」、「評価指標」等のキーワードを用いて検索し、66件の文献について文献検討を行った。

退院支援における評価指標は、ストラクチャー、プロセス、アウトカムにおいて多様な指標があげられた。評価指標には連携数や在院日数等に加えて、QOL、有害事象の防止等の患者・利用者本位の指標や、療養の場の移行に伴う情報共有や患者を中心とした治療や療養先選択の話合い等のケアの質指標となるプロセス評価も導入していくことが求められる。

#### A. 研究目的

本研究の目的は、退院支援における評価指標について文献検討にて明らかにすることである。

#### B. 研究方法

医学中央雑誌 Web 版 Ver5.0 の全期間のデータを対象として（検索日 2018/9/3）、「退院支援」、「患者満足度」、「アウトカム評価」、「評価指標」、「尺度」、「介入効果」のキーワードを用いて原著論文、抄録ありについて検索した。230 件の論文が抽出され、事例、退院支援に関する記載のないもの、精神疾患・ストマケアや THA など特定の疾患に特化したもの、看護師意識のアンケート調査によるもの、文献検討、スタッフ教育プログラムの開発に関する論文 146 件を除外し、重複文献 18 件を除く 66 件を分析対象とした。

#### C. 研究結果

##### 1. 退院支援評価指標

##### 1) ストラクチャー

評価指標として、入退院支援部門の設置専従の職員の配置、定期的な地域支援者との会議開催、スクリーニングシート、退院支援パス等のシステムの導入、退院支援マニュアルの作成、退院支援に関する院内外の研修開催、地域における退院支援ルール、ツール作成、信頼できるかかりつけ医の存在<sup>1)</sup>があげられた。

##### 2) プロセス

プロセス評価として、介護支援連携等指導<sup>2)</sup>、退院前訪問指導、退院時共同指導、退院後訪問指導、入退院支援加算、入院時連携加算等<sup>3), 4)</sup>の加算取得状況があげられた。

また尺度として、退院準備度評価尺度

(DRI)<sup>5)</sup>、病棟看護師の退院支援における包括的評価指標 7 因子 35 項目<sup>6)</sup>、プログラム援助要素に基づくフィデリティ(プログラム準拠尺度)<sup>7)</sup>、退院支援における SW 実践のアウトカム評価 36 項目<sup>8)</sup>、外来化学療法に関する意思決定のバランス尺度<sup>9)</sup>、退院支援実践自己評価尺度 (24 項目 4 下位尺度 6 段階評価)<sup>10)</sup>、<sup>11)</sup>、がん患者退院支援尺度 5 件法 43 項目 7 因子構造<sup>12)</sup>、退院支援看護師の個別支援における職務遂行評価尺度 (NDPAS、4 因子 24 項目)<sup>13)</sup>、<sup>16)</sup>、退院支援におけるチームワーク尺度 (32 項目 7 段階評価、3 下位尺度)<sup>14)</sup>、在宅の視点のある病棟看護の実践に対する自己評価尺度 (25 項目 5 因子)<sup>15)</sup>、ディスチャージプランニングプロセス評価尺度<sup>16)</sup>、<sup>17)</sup>、認知症を有する人の退院支援ニーズ評価尺度 (22 項目 4 因子構造)<sup>18)</sup>、医療施設における高齢者看護の質評価指標 (退院支援の領域)<sup>19)</sup> が開発されている。

他にもカンファレンス実施率<sup>3)</sup>、<sup>20)</sup>、退院支援計画書の記入<sup>4)</sup>、介入依頼件数<sup>4)</sup>、<sup>21)</sup>、<sup>22)</sup>、カンファレンス開催までの日数<sup>23)</sup>、MSW コンサルトまでの日数<sup>23)</sup>、介入から退院までの日数<sup>20)</sup> がプロセス評価として用いられていた。

### 3) アウトカム

評価指標として、在院日数<sup>24)</sup>、<sup>29)</sup>、再入院率<sup>2)</sup>、入院に関連する合併症、転帰 (退院場所)<sup>26)</sup>、在宅復帰率<sup>24)</sup>、<sup>30)</sup>、死亡率、患者満足度<sup>31)</sup>、介護者満足度<sup>32)</sup>、ADL 変化 (FIM、BI、日常生活機能評価点数、歩行距離)<sup>24)</sup>、<sup>26)</sup>、<sup>30)</sup>、認知機能変化<sup>33)</sup>、患者心理的健康度、介護者心理的健康度、病院費用、すべてのヘルスケアコスト、薬剤使用、医療ソーシャルワーカー介入依頼

件数<sup>2)</sup>、介護保険新規申請および区分変更申請件数<sup>2)</sup> が抽出された。

## 2. 患者満足度

患者満足度指標として、質的分析により【患者の意向の確認】【説明や指導のわかりやすさ】【退院支援に対する満足度】<sup>34)</sup> や入院全経過の満足(「入院満足」)率、退院の話が出てから退院までの期間の満足(「退院満足」)率、「連携室の対応満足」、「不安の相談相手の対応満足」、「退院先の満足」、治療・予後と退院後生活にたいする不安<sup>35)</sup> 等があげられた。さらに患者満足度評価尺度日本語版(CSQ-8J)に準拠した 16 項目(オリジナル)<sup>36)</sup> が開発されている。

## D. 考察

退院支援における評価指標は、ストラクチャー、プロセス、アウトカムにおいて多様な指標があげられた。退院支援では職員配置やスクリーニング・退院支援計画書立案等のシステム構築だけでなく患者や利用者へのケアプロセスの評価も重要である。アウトカム指標には連携数や在院日数等に加えて、QOL、有害事象の防止等の患者・利用者本位の指標や、療養の場の移行に伴う情報共有や患者を中心とした治療や療養先選択の話合い等のケアの質指標となるプロセス評価も導入していくことが求められる。

## E. 結論

退院支援における評価指標は、ストラクチャー、プロセス、アウトカムにおいて多様な指標があげられた。評価指標には連携数や在院日数等に加えて、QOL、有害事象の防止等の患者・利用者本位の指標や、療養の場の移行に伴う情報共有や患者を中心とした治療や療養先選択の話合い等のケア

の質指標となるプロセス評価も導入していくことが求められる。

#### E. 引用文献

- 1) 清永麻子, 時松玲子(2011): 認知症高齢者・家族への退院支援の在り方 介護負担の側面から, 日本リハビリテーション看護学会学術大会集録 23 回, 170-172.
- 2) 山崎優介, 斜森亜沙子, 近森さつき(2016): 心不全患者に対する退院支援システムの効果, 日本循環器看護学会誌, 12(1), 26-32.
- 3) 浪越未佳, 小野美和, 大谷沙由梨, 細川美奈子, 合田信子(2018): 地域包括ケア病棟における退院支援の取り組み 退院支援フローシートをカンファレンスに導入して, 地域医療, 55(4), 497-499.
- 4) 村田穂菜美, 角優佳, 林未来, 斎藤菜摘, 小野まゆみ, 他(2018): 大腿骨骨折術後患者のフローチャートを用いた退院支援の有効性 病棟内看護師間での退院支援統一のため, 日本看護学会論文集:慢性期看護, 48, 47-50.
- 5) 佐野哲也, 丹羽幸枝, 野口由紀子, 田中博高, 桑野祐次, 成田真由子(2018): 精神科リハビリテーションにおける精神障がい者の退院支援 退院準備度評価尺度[DRI]を用いて, 病院・地域精神医学, 60(2), 146-148.
- 6) 山本さやか, 百瀬由美子(2017): 病棟看護師の退院支援における包括的評価指標の作成, 日本看護研究学会雑誌, 40(5), 837-848.
- 7) 高野悟史, 中越章乃, 瀧本里香, 山下眞史, 古明地さおり, 他(2017): 効果をあげる地域移行・地域定着支援プログラムの再構築 病院・地域実践統合にむけた実践家参

加型形成評価プロジェクト, 病院・地域精神医学, 59(2), 189-191.

- 8) 高山恵理子, 山口麻衣, 小原眞知子, 高瀬幸子(2016): 退院支援において病院運営管理部門はソーシャルワーカーに何を期待しているのか 回復期リハビリテーション病院運営管理部門を対象としたソーシャルワーク実践アウトカム評価調査より, 医療社会福祉研究, 24, 9-25.
- 9) 荒井弘和, 平井啓, 所昭宏, 中宣敬(2006): 肺がん患者を対象とした外来化学療法に関する意思決定のバランス尺度の開発, 行動医学研究, 12(1), 1-7.
- 10) 林優美, 大佐古貴代, 宮崎朋子, 丹生淳子, 多曾田邦江(2018): 心不全患者への退院調整活動の実際と退院調整看護師の役割を考える 退院支援実践自己評価尺度を活用して, 看護実践の科学, 43(3), 70-77.
- 11) 坂井志麻, 大堀洋子, 田中優子, 佐藤由紀子, 渡辺亜美, 藤井 淳子(2015): 大学病院における退院支援研修の取り組みと効果, 癌と化学療法, 42Suppl.I, 72-74.
- 12) 木場しのぶ, 齋藤智江(2017): 急性期病院におけるがん患者への退院支援 病棟看護師と退院調整看護師の協働との関連性, 日本看護科学会誌, 37, 298-307.
- 13) 吉田有美(2018): 中規模病院における看護職の退院支援・退院調整に影響を及ぼす要因, 日本看護学会論文集:在宅看護, 248, 3-6.
- 14) 深野美紅, 難波志穂子(2016): 退院支援におけるチームワーク尺度の考案, 日本医療マネジメント学会雑誌, 17(2), 60-65.
- 15) 山岸暁美, 久部洋子, 山田雅子, 高橋則子, 鎌田良子, 他(2015): 「在宅の視点のある病棟看護の実践に対する自己評価尺度」

- の開発および信頼性・妥当性の検証, 看護管理, 25(3), 248-254.
- 16) 戸村ひかり, 永田智子, 村嶋幸代, 鈴木樹美(2013): 退院支援看護師の個別支援における職務行動遂行能力評価尺度の開発, 日本看護科学会誌, 33(3), 3-13.
- 17) 大島利恵, 佐藤まゆみ(2012): ディスチャージプランニングプロセス評価尺度を利用した退院支援勉強会の評価, 日本看護学会論文集:看護管理, 42, 514-517.
- 18) 瀧上恵子, 田高悦子, 臺有桂(2012): 認知症を有する人の退院支援ニーズ評価尺度の開発とその信頼性・妥当性の検討, 日本地域看護学会誌, 15(2), 18-26.
- 19) 松井美帆(2018): 医療施設における高齢者看護の質評価指標の検討, 老年看護学, 22(2), 53-59.
- 20) 篠田朋佳, 柳敦子, 酒見大輔, 大山渚, 中野早苗, 他(2013): 循環器疾患患者の退院支援フローチャート活用の有効性, 中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌, 8, 232-235.
- 21) 尾崎成子, 名倉桂古, 野沢りかこ, 横井慶恵, 熊谷富子(2011): 在宅連携担当看護師の介入に伴う早期退院支援の取り組みと効果, 聖隷浜松病院医学雑誌, 11(2), 21-24.
- 22) 佐藤奈緒子, 坂西未帆, 木村士子, 中島安恵(2011): 退院支援の早期着手と看護師の意識変化 退院支援・調整スクリーニングシートを導入して, 東京医科大学病院看護研究集録, 31, 52-56.
- 23) 川本俊治, 重松研二, 河野由佳, 田村律, 松田守弘, 上池渉(2015): データウェアハウスを活用した退院支援管理システムの在院日数に及ぼす効果, 日本医療マネジメント学会雑誌, 15(4), 251-255.
- 24) 坪田章平, 山崎孝, 吉田一平(2017): 当院回復期リハビリテーション病棟の実態調査と取り組みについて, 理学療法福井, 21, 10-12.
- 25) 仲田紀彦, 俣田敏且(2017): 頸椎椎弓形成術クリティカルパスの運用上の問題点とその対策 退院計画の重要性とチェック機構構築の有用性, 日本医療マネジメント学会雑誌, 17(4), 185-191.
- 26) 若林昌司, 廣澤隆行, 吉田真美, 中野良規, 佐々木正太, 土手慶五(2012): 当院における心不全サポートチームと心臓リハビリテーション, 理学療法の臨床と研究, 21, 29-33.
- 27) 杉野安輝, 近藤友喜, 加藤早紀, 松浦彰伸, 木村元宏, 他(2017): 肺炎入院診療における質評価指標(QI)の活用, トヨタ医報, 27, 100-103.
- 28) 鷺見尚己, 村嶋幸代, 鳥羽研二, 大内尉義(2001): 退院困難が予測された高齢入院患者に対する早期退院支援の効果に関する研究 特定機能病院老年病科における準実験研究, 病院管理, 38(1), 29-40.
- 29) 牛島久美子, 松森智香, 谷川和代, 道端由美子(2010): 急性期病院の脳卒中地域連携パスからみえてきたもの 看護必要度(日常生活機能評価)評価を通して, 日本病院会雑誌, 57(3), 317-321.
- 30) 小西達矢, 三浦健洋, 水上正樹, 竹島英祐, 大和寛久(2014): 当院回復期リハビリテーションにおける現状と課題 FIM 値を用いた全国との比較, みんなの理学療法, 26, 33-36.
- 31) 吉村優佳里, 吉村繁子, 後藤裕子, 前田陽子(2007): 退院支援を受けて在宅移行

した患者の現状 今後の退院支援への検討,  
日本看護学会論文集:地域看護, 37, 137-139.

3 2) 胡美恵, 内山早苗, 岡本清子(2012):  
退院支援満足度調査による退院支援ニーズ  
の検討, 日本看護学会論文集:地域看護, 42,  
54-57.

3 3) 佐藤もも子, 齋藤和子, 棟方庸子, 千  
葉和恵, 喜多島直美(2017): 地域包括ケア  
病棟患者の ADL 変化と退院支援に及ぼす  
影響, 黒石病院医誌, 23(1), 21-26.

3 4) 伊藤三紀, 久々江理佳, 千葉美恵子,  
高木日登美(2015): 個別性のある退院支援  
の実施評価と課題 連携した訪問看護師と  
患者・家族への調査からの考察, 市立札幌  
病院医誌, 74(2), 219-224.

3 5) 嶋崎明美(2013): 退院支援を受けた  
患者・家族の入院満足に影響する因子, 姫  
路医療センター紀要, 13, 1-4.

3 6) 楠本順子, 川崎浩二(2008): 満足度  
調査による退院支援の評価, 日本医療マネ  
ジメント学会雑誌, 9(2), 322-326.

#### F. 健康危険情報

特になし

#### G. 研究発表

特になし

#### H. 知的財産権の取得・登録状況

該当なし

